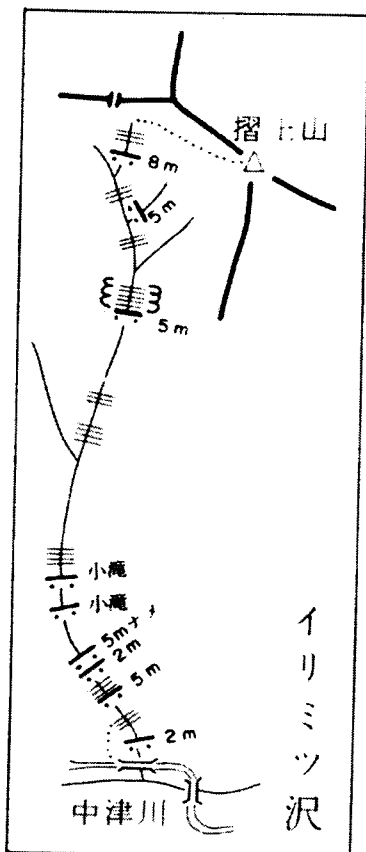


# イリミツ沢

一九八四年七月二一日

摺上山山頂から、シヤクナゲのヤブをかきわけて、イリミツ沢の源頭に出る。一五分程で沢に出た。ナメを下って行くと、八段滝が現れ、本流へと出る。

イリミツ沢は、所々にナメが出てくるだけで、変化に乏しい沢だ。小さなゴルジュがあつて、その先の五段滝を下ると、あとは平凡な河原歩きとなった。中津川林道に出る手前で、三個程の滝が連なる連瀑帯があつ



た。これが最後のハイライト。すぐ

# 日蔭沢右俣

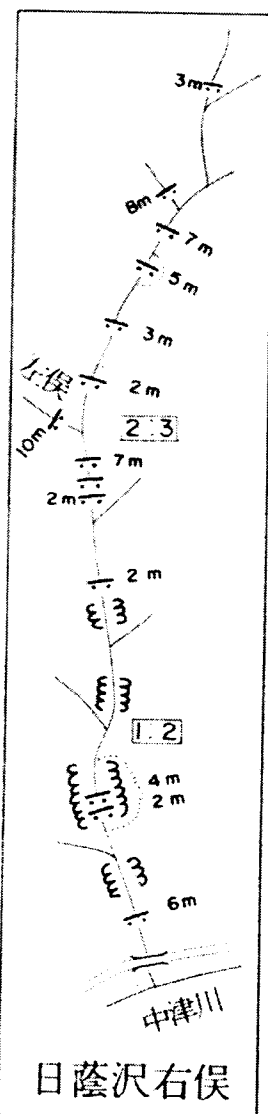
一九八四年一〇月一〇日

梨平から中津川林道に入り、車で約一五分進むと、両側から支流がそ

に中津川林道へ。沢幅が適当に広くて、明るい感じの沢であった。二一時、下降終了。(記)  
「タイム」 摺上山(九:三〇)↓中津川林道  
ミツ沢(九:三〇)↓中津川林道  
(一一:〇〇)

そぐ第一五号橋に出合う。この橋のたもとから七ツ森のピークに向かつてつめあげるのが日蔭沢で、対岸の沢が日向ゴミ沢である。

九時二〇分、遡行開始。河原をしばらく歩くと、F1六段の滝が現われる。右岸を直登して越えようと、この先は幅の狭い小ゴルジュとなって小滝が続く。二時と四時の二段滝は、



コケが生えていてすべりやすく、左岸を捲いて上に出る。

やがて水量比一対二の二俣。水量の多い右へ入ると、また小さなゴルジュと小滝を繰り返す。沢ぞいには釣人の踏跡があるので、どこでも捲くことができるし、ゴルジュといっても水量が少なくえ小さいので、緊張感はなく、ちよっぴり期待はずれという感じ。

沢の中程は倒木が多く、またぎながら進む。やがて一〜二箇の小滝が連続したあとに七箇の滝が出る。これは直瀑なので、右岸のヤブを高捲く。

すぐ二俣。左俣には一〇箇の滝があり面白そうだったが、水量の多い右俣をつめる。こちらはブッシュが

## 日蔭沢左俣右沢

秋道沢左俣の遡行を終えて尾根に出たのが九時三〇分。このまま下るのもつまらないということで、日蔭沢左俣右沢を下降し、左沢を遡行してから秋道沢右俣を下降しようという事になって、九時四〇分下降開始。

多く、だんだん急登となる。水が溜れた頃から、垂直に近いくらいの壁をブッシュにつかまりながら登り、尾根に出て日蔭沢の遡行を終える。

(記・身二時二)

「タイム」 日蔭沢出合(九:二〇)↓  
二俣(一〇:〇五)↓尾根(一二:五五)

一九八四年七月二十九日

五分くらいのヤブこぎで沢に降りる。しばらく下降すると、ナメ状の小滝が次々と現われる。すべてクライミングダウン。登ってみたらおもしろいだろうと考えながら下る。

左沢出合で小休止後、二俣まで下降。五〜一〇箇の小滝が続くがすべ